

【プログラム】

- 13:30- 開場(受付開始)
- 14:00-14:10 開会の辞および共感性領域の紹介 長谷川 寿一
(東京大学総合文化研究科)
- 14:10-14:30 コミュニケーションにおける共感性 橋彌 和秀
(九州大学人間環境学研究院)
- 14:30-16:00 NEW PERSPECTIVES ON OSTENSIVE COMMUNICATION
Dan Sperber (CNRS(France)・CEU(Hungary))

【スペルベル教授略歴】

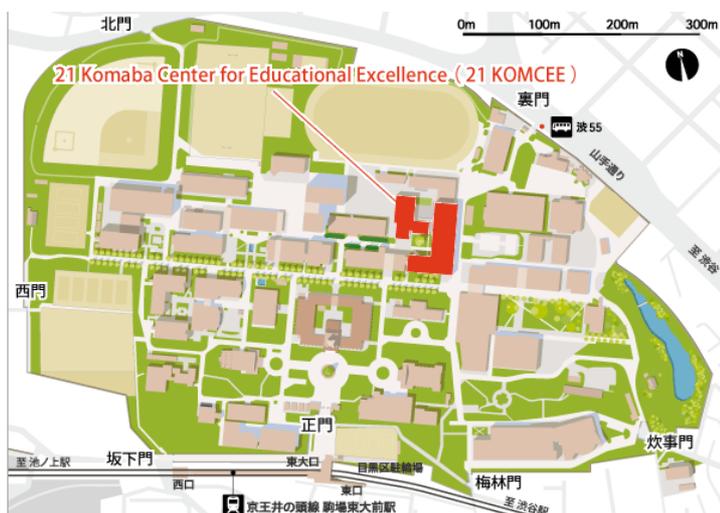
CNRS(フランス国立科学研究センター)名誉研究教授、
CEU(中央ヨーロッパ大学、ハンガリー)教授。

フランスの社会・認知科学者。

人類学・言語学・哲学・心理学に渡る多数の論文と著書で知られている。

特に「表象の疫学」理論と、「関連性理論」についての多くの論文・著作で名高い。象徴体系をめぐる研究は、文化の拡散における認知の役割、ことに文化表象の伝達にバイアスをかける認知的制約の役割を重要視しており、この分野の研究に「認知的転回」をもたらした。この研究は現在も認知人類学、文芸批評、美術史において、大きな影響力を持ち、議論を提起し続けている。

彼の著作はまた、言語学および哲学、心理学においても大きな影響力を持っている。イギリスの言語学者・哲学者であるディアドリ・ウィルソンとともに、「関連性理論」として知られる、特に言語を介したコミュニケーション研究における画期的なアプローチを構築した。認知的プロセスを関連性の最大化に向けた調整プロセスと捉える理論は、言語学・人工知能・心理学の領域に大きな影響を及ぼし、また、「表象の疫学」と同様、現在も新たな議論を提起し続けている。



【会場アクセス】

京王井の頭線駒場東大前駅下車
徒歩3分
左側の建物の地下1階が会場です。

【問合せ】

新学術領域研究
「共感性の進化・神経基盤」事務局
empathy.admin@darwin.c.u-tokyo.ac.jp
TEL: 03-5454-6709